



SDGsキッズ支援プロジェクト 2025

学ぼうSDGs!! 暮らしの中に幸せを!!

主催 『SDGsキッズ支援プロジェクト』実行委員会
(積水ハウス、大阪ガスネットワーク、産経新聞社)

後援：大阪府、木津川市

新SDGs
キッズ
新聞

令和8年(2026)1月発行



産経新聞社

企画制作：『SDGsキッズ支援プロジェクト』実行委員会
(積水ハウス、大阪ガスネットワーク、産経新聞社)

発行所 ©産業経済新聞大阪本社

〒556-8660 大阪市浪速区湊町2-1-57
電話(06)6633-1221(大代表)

暮らしとSDGs 遊びながら体感した



約1・7トのゴミの山からプラスチックを分別。「むずかしい!」

JUNOPARKで遊んで学ぶ! SDGs体験学習ツアー

日時 2025年 11月3日
場所 JUNOPARK (ジュノパーク)
(京都府木津川市兜台6-6-4)

プログラム

- 11:20 お話し「住育エデュテイメント施設
<JUNOPARK>の取り組み」
講師:枚田栄次ジュノパーク館長
- 13:00 体験アクティビティ
「ユニバーサルデザイン」
- 14:00 体験アクティビティ「資源循環」
- 15:00 記事作成「新聞記者になろう」

体験学習は、JUNOPARK(ジュノパーク)の枚田(ひらた)栄次館長の講義(こうぎ)でスタート。枚田館長は夢中になって遊ぶ中で、さまざまな視点で考えるところか、自己を表現するといった感性が育まれ、そこから大切なものを見つめる価値観(かちかん)が生まれて幸せにつながると説明。「勉強などと特別意識しないで、心の底から楽しんでください」とよびかけました。

子どもたちが挑戦(ちようせん)した体験アクティビティは「ユニバーサルデザイン」と「資源循環(しげんじゅんかん)」の2つで

体験学習は、JUNOPARK(ジュノパーク)の枚田(ひらた)栄次館長の講義(こうぎ)でスタート。枚田館長は夢中になって遊ぶ中で、さまざまな視点で考えるところか、自己を表現するといった感性が育まれ、そこから大切なものを見つめる価値観(かちかん)が生まれて幸せにつながると説明。「勉強などと特別意識しないで、心の底から楽しんでください」とよびかけました。

感性育む2つの課題に挑戦

だれもが住みやすい社会を未来へつなぐため、SDGsについて考える子どものプログラム「JUNOPARK(ジュノパーク)で遊んで学ぶ! SDGs体験学習ツアー」が2025年11月3日、京都府木津川市の住育エデュテイメント施設「JUNOPARK」で開催されました。大阪・京都・奈良の26世帯の小学4年〜6年生26人が参加、体の動きを制限する装具(そうぐ)を身に着けてアスレチックに挑戦したり、ゴミの山からプラスチックを分別したり、夢中で遊びながらSDGsが日常の暮らしに結びついていることを実感、その体験記が新聞となりました。

「ユニバーサルデザイン」は、足などに体の動きを制限する装具を着けて、約10分先のゴールをめざすアスレチックです。何も着けないときはかんたんだったのが装具を着けると進めない。ところが、みんなで相談してコースの段差をなくすなど、工夫したらみんな渡れるようになりました。子どもたちは「だれでも使いやすいユニバーサルデザイン」の意味を体感した様子でした。

「資源循環」では、木や紙、合成樹脂(ごうせいじゅし)などさまざまな素材の約1・7トのゴミの山からプラスチックを探し出すのが課題。

これがなかなかむずかしい。キッチン用品から消しゴムまでプラスチックはいろんな形になっていて、まぎらわしいものも多い。みんなはグループごとに「これはどうかな」と、顔を寄せ合って相談しながら選び出しました。何度か挑戦したあと、最後にプラスチックから再生したかわいらしい日用品をもらいにっこり。

「ゴミは分別したら資源になります」。スタッフの言葉に、子どもたちは分別(ぶんべつ)という日常の行いが直接SDGsに結びついていることに納得の表情でした。

感性を豊かにするしかけたくさんある

ジュノパーク館長

枚田 栄次（ひらた えいじ）



「子どもたちがふだんの暮らしの中でしあわせを感じたらいいなあ」という願いからジュノパークができました。枚田館長はジュノパークのなりたちから話を始めました。

そして、ユニセフの調査で日本の子どもの幸福度（こころの豊かさ）が先進国36カ国のうち32位と低いとされたことを

紹介（しょうかい）したうえで、「しあわせって何でしょう」とたずねました。

みんながちよつと考える表情になったのをみて、枚田館長は「しあわせは、しあわせとかんじる気持ちのこと。つまりしあわせの起点（きってん）きてん」は感性です」と語りかけました。「感性が豊かになれば何が大切かを考える基準（きじゅん）（きじゅん）、つまり価値観（かちかん）が育ち、自分がしあわせかどうか、どうしたらしあわせを感じられるかわかるようになります」といい、「ジュノパークにはそんな感性を豊かにするしかけたくさんあります」と話しました。

ジュノパークには体験プログラムとして5つの体験アクティビティと6つの体験ギャラリーがあり、この日、みんなが体験する2つのアクティビティのう

5つの体験アクティビティと6つの体験ギャラリー

JUNOPARK（ジュノパーク）は、「キッズ・ファースト企業」をかかげる積水ハウスが2025年8月に開業したエデュケーション（教育）とエンターテインメント（楽しさ）を融合（ゆうごう）した、おもに小学4年生以上を推奨（すいしょう）とする体験型施設（しせつ）です。

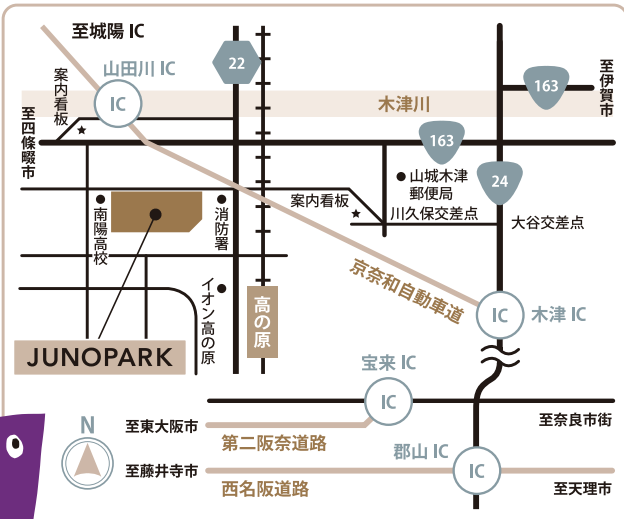
2〜4階が体験フロア。「暮らしの中で育まれる6つの感性」として、デザイン・構造・ユニバーサルデザイン・住環境・資源循環・自然環境に着目。それ

ぞれをテーマとする5つの体験アクティビティと6つの体験ギャラリーで遊びながら感性を育むことができます。

例えば「住環境」では、ゴーストハウスを探索して居心地（いごち）のいい家につくりかえることで、順序良く考えていく感性を、「構造」では、チームで協力・工夫して自分の背より高いタワーを建て、観察や追求する感性を育みます。「自分が大切にしたいこと」をみつける体験になることをめざしています。

JUNOPARK（ジュノパーク）

所在地	京都府木津川市兜台 6-6-4
アクセス	近鉄京都線「高の原」駅から徒歩 15 分 木津川市コミュニティバスで 6 分 車で京奈和自動車道山田川 IC より 5 分 第二阪奈道路宝来 IC より 20 分 駐車場あり
営業時間	9:30 ~ 17:00 水曜休館（祝日・春・夏休み・長期連休をのぞく）
チケット	子ども（小・中学生） 500 円 大人 1000 円



ち「ユニバーサルデザイン」について

「チームで知恵を出し合ってだれにでもやさしい環境（かんきょう）を作ってもらいます」と紹介（しょうかい）しました。

「資源循環（しげんじゅんかん）」のアクティビティについては「ゴミの山から再生する素材探しに挑戦（ちようせん）してみよう」と話しました。ゴミはまざったまま

だとゴミですが、分別（ぶんべつ）すれば資源になります」と説明。積水ハウスが家を新築すると1・フ톤のゴミが出るけれど分別してすべてを再利用

している、と話しました。

「2つのアクティビティは、住み続けられる町づくりとか、つくる責任・つかう責任などSDGsと直接（じきく）かわりますが、未来をになう子どものしあわせをめざすことはSDGsの大きな取り組みと方向（かほう）が一致（いちじ）しています」と枚田館長。

「とにかく夢中（まうちゆう）になって遊んでください。きっと学びがあります」と呼びかけると、みんなの表情（へいしやう）がさつとかがやきだしました。



体験アクティビティ ユニバーサルデザイン

体験ギャラリー

多角的な視点でとらえる感性



動きを制限する装具をつけてアスレチックに挑戦。知恵を出し合ってだれにもやさしいコースに変える。協力することと多角的な視点でとらえる感性を育む。

体験アクティビティ 構造

体験ギャラリー

観察・追求する感性



木製ポールをつないで高さ2メートルのタワーをチームで協力してつくる。プロの技を学びバランスをとりしなやかに。モノのかたちや仕組みを観察・追求する感性を育む。

体験アクティビティ デザイン

体験ギャラリー

自己を表現する感性



50カラー、200種類以上の素材を組み合わせて、コンピューターで自分好みのマイルームをデザイン。自分の「好き」を知り、自己表現の感性を育む。



夢中で遊ぶ中に発見があった！

体験アクティビティの「ユニバーサルデザイン」と「資源循環」はそれぞれ6チームに分かれて挑戦。2つとも文字通り「夢中で遊んで楽しむ」体験となりました。

「ユニバーサルデザイン」では、体が動きにくくなる装具を身に付け、約10分先のゴールをめざすアスレチックに挑（いど）みました。途中には障害物もあつて、装具がじゃまになり、みんなむずかしい様子。

体験アクティビティの「ユニバーサルデザイン」と「資源循環」はそれぞれ6チームに分かれて挑戦。2つとも文字通り「夢中で遊んで楽しむ」体験となりました。

メンバーが渡り切ると、各チームで拍手や歓声があがりました。

「だれにでも使いやすいユニバーサルデザインのコースの完成です」とスタッフ。いろいろな人の視点に立つて工夫すれば、だれでも使いやすい環境を実現できることがわかりました。

「消しゴムもプラスチックとは思わなかった」など、いろいろな発見も。「ゴミはきちんと分けられれば資源になります」というスタッフの言葉にみんな分別の大切さを実感していました。

ユニバーサルデザインとは



だれでも使いやすい製品、サービス、環境などをつくるためのデザイン。デザインするときには、だれでもとか、できるだけ自由とか、簡単に使える、といった7つの基本的な考え方に沿って作るよう求められています。自動ドア、音の出る信号、多機能トイレなど、身の回りにもたくさんあります。SDGsの「だれ一人取り残さない」社会という理念と一致します。

おかだ・やまと

(岡田大翔) 小学6年

ユニバーサルデザインはいろんなところで役立っています。もしおばあちゃんに車いすが必要になったりしても何か工夫できそうです。体験をしてみてもSDGsに興味を持てるようになりそうです。将来は教師になつていじめなどをなくしたい。それには生徒に寄り添ってあげることが大切だと思います。

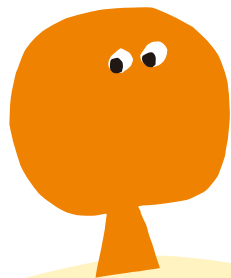
ユニバーサルデザインは
いろんなところで役立っている



きたもり・りようたろう

(北守凌太郎) 小学5年

お中になることで感性がゆたかになるといわれたがほんとうだと感じました。みんなで協力して工夫すれば、不便なものだれでも使えるものに変化させられる。それがユニバーサルデザインと知りました。ゴミも分別することでいろんなものにリサイクルできるのにびっくりした。身近なものをもっとリサイクルしてみたいです。



体験ギャラリー

自然環境

自然に共感する感性



自然と共生するアイデアハウスの実例を知って自然の豊かさと、それと共に暮らすことの大切さを学ぶ展示。自然に共感する感性を育む。

体験アクティビティ
体験ギャラリー

資源循環

モノの価値を見出す感性



ゴミの山から目当ての材料を見つけ、分別して新しいアイテムに生まれ変わらせる。すべてのモノは資源と気づき、モノの価値を見出す感性を育む。

体験アクティビティ
体験ギャラリー

住環境

論理的に考える感性



ゴーストハウスを調査して、五感が訴える「イヤな感じ」の理由を探し、「いい感じ」につくり変える。理由を論理的(ろんりてき)に考える感性を育む。

はしもと・そうき
(橋本奏基) 小学6年

ジュノパークは、子どもがくらしの中でしあわせを感じられる心を広くむかえにつくられたそうです。目とか足とか体のいろいろなところが不自由な人のしんでアスレチックコース、ゴミの山からプラスチックをぶんべつして家で使えるものに変えたりして、考えでなかったことを知ることができました。

よしむら・まほ
(吉村真穂) 小学4年

しあわせということは世界が平和で、生きるのがたのしいということ。ジュノパークが子どもたちにしあわせになってほしいということであつてくれたらいいなと思います。体験では、ぐちゃぐちゃにまざっているゴミも分べつすればリサイクルできることを知りました。資源を守る意味でも分べつはすごい。だからみんなができることは分べつをすること！



ゴミの山は
希望の山です

さおした・しょうたろう
(竿下正太郎) 小学5年

ゴミは分別すれば資源になります。つまりゴミの山は、希望の山、だということがわかりました。SDGsはあまりむずかしくかんがえなくていい。車をあまりつかわず、エコバッグをもつこと。エアコンの温度を夏はこれまでよりプラス1度、冬はマイナス1度にすると。意外にかんたんです。

かじはら・そうま
(梶原颯馬) 小学5年

体が不自由な人っていろいろいるなとてんで考えることが大切です。体験はみんな協力してやれて楽しかった。ゴミの分別では協力してスペシャルパーツをとれました。人は平等でなくてはいけないと思う。いじめや差別はだめです。あの人だけは違うからなんて絶対ありません。

いろいろな人のしてんで考えることができた

えはら・だいち
(江原大智) 小学5年

SDGsに関心があります。体が不自由なひとでもそうでない人でも使いやすい町にすることやゴミの山からプラスチックを分別して資源とする体験をしてみて、どれもSDGsにつながっていると思いました。感性を高められ、住むことについても学べました。ジュノパークはどの展示もSDGsと関係がありそうで、他の展示もみてみたいです。



差別なんて絶対ありえない



もりた・みなと
(森田湊斗) 小学5年

勉強だけでなく、たくさん遊んで感性を豊かに、といわれたのがよかったです。ユニバーサルデザインの体験では、少しの段差も通れないときがあつて困ったけれど、チームで考えて道の障害をなくせた。楽しかったです。ゴミ分別の体験ではエコバッグや消しゴムなど身の回りのいろいろなものがプラスチックで、分別が大それたことだと思いました。

まさおか・あやめ
(政岡彩芽) 小学4年

体が不自由な人の体験をしました。ユニバーサルデザイン体験でメガネをかけたら周りの風けいもとても見えづらかったり、車いすにすわると周りの物が取りづらいくことがわかりました。SDGsの勉強でトイレのない国がたたくさんあると知ったので、トイレがない国にトイレを作ったり、トイレをあげたりしたいです。

まぜまぜだとゴミ、分別すれば資源

さがわ・ゆうと
(佐川侑飛) 小学6年

家を建てる時にはゴミが1・7割も出るけど、それを全部再利用しているの聞き、おどろきました。ゴミはまぜまぜだとゴミのままだけど、分別すれば資源になります。体が不自由な人にとって不便なものも少し工夫すると、だれにでも喜ばれるものに変えられる。体験でそんなことがわかりました。

まえだ・つむぎ
(前田紡希) 小学6年

私は今幸せだと思つていますが、「分らない」と答えている人も多く、驚きました。ユニバーサルデザインの体験は、コースをどう作り変えると歩きやすくなるか、考えるのが楽しかったです。身の回りでユニバーサルデザインを探してみたいです。面倒だと思つてたゴミの分別が、意外に楽しいと感じました。

暮らしやすい町へ、
私も何かしよう

やまなか・はるき
(山中啓暉) 小学5年

普通のなんでもない動きが人によって難しいことがあります。でも少しの工夫でだれでも使いやすいものに変えられるとわかりました。ゴミ集めというあまりする気にならないけど、使えるものに再生するということ面白く感じた。言い方の違いで感じ方が変わります。これからは宝探しの手伝いのつもりでゴミの分別に取り組みます。

資源循環とは



使った後のものや廃棄物(はいきぶつ)を再利用するなどして資源を大切にしようという取り組みのこと。マイボトルを使うなどしてゴミの発生を抑える(リデュース)、使ったものを捨てずに繰り返し使う(リユース)、ゴミの分別収集で新たな資源にする(リサイクル)で成り立ちます。地球の資源を使って物を作り(生産)、それをみんなが使う(消費)、使ったあとのゴミを再利用し、資源にするというサイクルをつくります。

分別はいろいろな風に
社会で役立っている

そめや・みつぎ
(梁谷美月) 小学4年

日本の子どもはけんこう度が先進国36カ国中1位だったのにせいのまんざく度は32位。そのりゆうが気になります。体験では、手になれないアイテムをつけたらドアノブがまったく動かせず、苦しかった。ユニバーサルデザインはとても大切です。分べつもむずかしかったです。でもいろいろな風社会で役立っていることがわかりました。

けんこうだけど しあわせでないのはなぜ？

かくだ・だいき

(角田 大希) 小学4年

日本の子どもは、世界の先進国の中でけんこう度は1番だけだしあわせ度はずつと下の方です。けんこうだけれどしあわせでないってなぜだろう。ユニバーサルデザインの体験で住み続けられる場所をつくること、たいせつさを知りました。けんかやおなかがいっている人をなくし、しょうがいがあってもみんななかよく住み続けられる世界にしたいです。

まえだ・ときほ

(前田 時穂) 小学4年

ジュノパークは遊ぶうちにSDGsを学べる場所でした。SDGsを日じょうの生活と結びつけてくれて、わかりやすかったです。日本にきている外国人が困った時、相手の視点に立って考えて助けたり、行動してみるといいと思いました。再生ラボでのプラスチックの分別はたいてスラスカした音をたよりに探すことができました。

おおはら・はな

(太原 羽南) 小学4年

かんたんに通れた道が装具をついたら急にむずかしくなりました。わたしにできても、人によってそれがむずかしいことがあると分かりました。思いやりでみんなが住みやすい世界になると思いました。そんな世界をつくるのに役立ちたいです。学校の先生になってSDGsについて子どもたちにおしえたい。

たにぐち・しおり

(谷口 志織) 小学4年

ユニバーサルデザインは目の見えない人やおとしより、体をうごかしにくい人が安心して町を歩けるようにするための大切な工夫ですが、ふだん見なれている点字ブロックやスロープもそうだったと知りました。楽しく遊びながらかんきょうやSDGsを学べて楽しかったです。

ユニバーサルデザインは大切な工夫



いけうち・ののか

(池内 野乃花) 小学4年

日本はゆうふくだとおもっていたけど、幸福度が低いと知り、おどろきました。もしかしららいじめなどが原因かな。プラスチックはいろんなかたちになんかして見分けにくいので分別するのに注意が必要です。SDGsの目標「飢餓をゼロに」に関心があります。私が食べられなかったらきつと苦しいと思う。食べ残さないようにします。

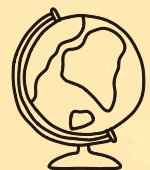
しあわせのいみ 学べてよかった

なかじま・あすか

(中島 明日香) 小学4年

自分をしあわせとかんじている人がすくないことにおどろきました。しあわせのいみがよくわからなかったけど、学べてよかったです。SDGsのジェンダー平等に関心があります。すきな仕事ができるかどうか、女性と男性の違いがあると聞くので気になります。女の子はスカート、男の子はズボンなど決められるのはいやだなと思います。

子どもの
幸福度
ランキング



(2025年ユニセフ報告書)

総合順位

- 1 オランダ
- 2 デンマーク
- 3 フランス

14 日本

精神的な幸福度

- 1 オランダ
- 2 ポルトガル
- 3 デンマーク

32 日本

身体的な健康度

- 1 日本
- 2 フランス
- 3 デンマーク

ユニセフ(国連児童基金)が2025年5月に発表した子どもの幸福度ランキングでは、日本は身体的な健康度では先進国36カ国中で1位だったのに、精神的な幸福度は32位と低い順位でした。子どもの自殺率の高さなどのためとしています。教育や学力などを合わせた総合的な幸福度は14位でした。



みんなで話し合っ て協力するのが楽しかった

まちだ・はるか
(町田遥) 小学4年

体験を2つしましたが、どちらもどうしたらうまくいくか、みんなで話し合っ
て協力して進めていくのが
楽しかったです。話し合い
をすることで差別なんかも
なくなると思います。体の
不自由な人を助きたい。ゴ
ミを新しいものに変えるこ
とで減らしたい。科学者に
なっているいろいろな国に役
に立ちたい。

プラスチックの分別 むずかしかった

いくなみ・しほ
(幾波志帆) 小学4年

日本の子どもの幸せ度が
先進国36カ国中32位と低かつ
たことにびっくりしました。
幸せってなんだろう。私は
幸せのことなんて考えてな
かったけど、今は自分を幸
せだと思います。SDGsの
平和をテーマにした目標16
に関心があります。戦争や
ぼう力、きがなくなつた
らいいのと思っています。

ふじなが・りょうた
(藤永 椋太) 小学4年

新しい家をたてたときに
出るゴミが全部しげんとして
使えらと知り、驚きました。
日本全体で出るゴミは1年間
でなんと4167万トもあり
ます。ゴミのリサイクルは大
切です。SDGsにこれまで
よりきょうみをもちました。
でもゴミの中からプラスチッ
クを分べつするのは、いが
いなものがいっぱいあつて
むずかしかったです。



ふくざわ・たつよし
(福沢 龍義) 小学4年

幸せの起点が感性をゆた
かにすることだとはじめて
知りました。SDGsでは目
標16と7と6と3にきょう
みがあります。平和ならみ
んな幸せだし、エネルギー
をみんなが利用できれば生
活がべんりに、水がきたな
いとびようきになつてしま
う。体が不自由な人もくら
しやすく、どれも幸せにつ
ながります。

SDGsの実現には 子どもも関われる

はくい・みか
(伯井 美香) 小学5年

資源は限られているから再
利用が大切です。わたしはで
きるだけゴミを分別していま
すが、海にすてられているプ
ラゴミをみると、「きちんと分
別してすてて」と思います。
そう思いませんか？SDGs
では12、14、15は子どもが関
われる目標です。使う責任、
ポイすてで海を汚さない、動
植物を大切に陸の豊かさ
を守る。

ほうじょう・はな
(北條 花) 小学5年

夢中になることで感性が育
まれ、何が大切かという価値
観が育つ。それが幸せを感じ
ることにつながる。そんなサ
イクルが必要だというお話が
印象に残りました。分別でい
ろんなものが再利用できるよ
うになるし、ゴミの量が減つ
て環境にも優しい。日常のな
んでもないことと思つていた
けど、すてきなことなんだと
気づきました。

(敬称略)



SDGs (持続可能な開発目標)

17目標 2030年までに実現めざす

「だれ一人置きざりにしない」を合言葉に、2030年までに
すべての人々にとってよりよい、持続可能な未来を築(きず)
こうという国際目標。2015年の国連サミットで採択(さいたく)
され、飢餓(きが)や貧困、不平等、気候変動、環境劣化(かん
きょうれつか)、平和と公正などについて、解決すべき17
の目標と、そのための行動指針169ターゲットを定めていま
す。このままでは、人類が安定してこの世界でくらし続ける
ことができなくなる、という危機(きき)感から世界中のさま
ざまな立場の人々が話し合い、決めました。



さがわ・ゆうと(佐川 侑飛)
困っている人を助ける

もりた・みなと(森田 湊斗)
ゴミを減らすためにゴミの分別をし、食べ残しをしないようにする

やまなか・はるき(山中 啓暉)
SDGsにとりくみまくる

おかだ・やまと(岡田 大翔)
せいとによりそって、いじめやけがをできるだけなくすことができる教師になりたい

まえだ・つむぎ(前田 紡希)
分別やりサイクルなど、環境問題が少しでもおさまるようなことをしたい

そめや・みつき(染谷 美月)
ゴミの分べつを気をつけたい

なかじま・あすか(中島 明日香)
みんな1人1人のことをしったり、じこやけががないようにあんしんしてあそべるようにしたい

さおした・しょうたろう(竿下 正太郎)
エアコンをこれまでより夏はプラス1度にし、冬はマイナス1度にする

わたしのSDGs宣言

SDGs体験学習プログラムに参加した子どもたちが「わたしのSDGs宣言」を発表しました。ふだんの暮らしの中で何ができるか。さまざまな誓いが表明されました。



はしもと・そうき(橋本 奏基)
ゴミのぶんべつをする

かくだ・だいき(角田 大希)
おにぎりアクションをしていきたい

ほうじょう・はな(北條 花)
すべての人にしんせつにする

ふくざわ・たつよし(福沢 龍義)
ゴミをぶんべつすることやぼきんをする

まえだ・ときほ(前田 時穂)
生活にこまっている人をしえんしたい

はくい・みか(伯井 美香)
植物や動物を大切に

いけうち・のか(池内 野乃花)
くらしの中でケンカをしないために、みんなのことを思いやる

ふじなが・りょうた(藤永 椋太)
だれもないへやで電気がついていたら消す。ごはんはのこさない

いくなみ・しほ(幾波 志帆)
ごはんをのこさないようにする

まさおか・あやめ(政岡 彩芽)
いる物だけ買ったたりもらったりする

たにぐち・しおり(谷口 志織)
平和や平等とはどのようなものなのかを考えて、いろんな人の目線に立って思いやりを忘れないようにしたい

かじはら・そうま(梶原 颯馬)
いじめや差別されている人に手をさしのべてあげる

みやま・ゆずか(三山 柚香)
仲よくする。ゴミを分べつする

きたもり・りょうたろう(北守 凌太郎)
プラゴミをポイしてしない。きゅうしょくを食べのこさない

まちだ・はるか(町田 遥)
科学者になっていろいろな国で活やくしたい

おおはら・はな(太原 羽南)
学校の先生になってSDGsをおしえたい

よしむら・まほ(吉村 真穂)
街におちているごみなどをひろう。ごみのぶんべつをする

えはら・だいち(江原 大智)
けんかを止めて、みんなと仲良くする

(順不同)